

### 小中学校の統合・再編について

角張 一郎



〔質問〕学校の統合・再編について、教育委員会ではどのような議論をしているか伺う。

〔答弁〕〔教育長〕平成27年2月の「白石市小中学校在り方検討委員会」の答申によると、10年後（令和7年度）は1学年あたり250名くらいで推移すると見込んでいた。

また、学校規模は、小中学校は複式学級にならない規模、中学校はクラス替えが可能な規模であることと答申されているが、実際の出生者数は、昨年度は135名と予測の約半分というところまで少子化が急速に進行している。

教育委員会として、

具体的な進め方、再編などの結論にはまだ至っていないが、小中学校の統合、あるいは学区の再編も含め議論を進めており、今後とも議論を進めていきたいと考えている。

〔質問〕学校の統合・再編について、市長の所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕小・中学校の統合・再編については、教育委員会での議論の過程も含めて注視していきたい。

学校の主役は子どもたちであると思っており、子どもたちが将来の夢や希望をかなえる環境づくりが非常に重要であると考えている。

〔質問〕学校の統合・再編について、今後の進め方を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕学校の統廃合というのは大変

難しい問題であり、地域、保護者の皆さんの理解なくして進めることはできない。

また、子どもたちにとってどのような学習環境が良いのかということとは最大の課題である。

少子化という将来のことも含め、本市の教育のあり方について、今後、どのような形で統廃合問題に取り組んでいくのかを教育委員会として検討していきたい。

〔質問〕小中一貫校について所見を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕小中一貫校の特色として、9年間一貫的な体系で継続的な教育が可能であるという最大のメリット

があり、本市の統合・再編については、小中一貫校という形も有力な選択肢の一つであると考えている。

### おくやみ手続き一本化について

松野 久郎



〔質問〕高齢化の進展や世帯構成、家族構成の変化により、遺族が行う死亡・相続に伴う手続きの負担は一層増加している。

別々の窓口での手続きがワンストップでできる窓口の新設を要望するが、いかがか。

〔答弁〕〔市長〕現在、手続きの多くは、庁舎1階の市民課・総合案内・税務課と健康センター1階の健康推進課で済むようになっている。また、

高齢者など歩くことが困難な場合は、各課の担当者が市民課窓口に出向いて対応しており、広い意味でのワンストップサービスと捉えている。

亡くなられた方が受

けていたサービスによっては、担当窓口で手続きをしていた場合もあるが、ご理解をいただきたい。

〔質問〕もう一歩進んだ一本化の窓口を新設する考えはあるのか。

〔答弁〕〔市長〕可能な限り分かりやすく手続きが取れるよう、スムーズな案内をさせていただくことが、現在、本市でできるワンストップと考えている。

◎農山漁村再生可能エネルギー法活用について

〔質問〕本市の豊かな自然環境、景観の保全、防災や自主財源の確保などメリットが大きいこの取り組みを要望するが、いかがか。

〔答弁〕〔市長〕自然環境の保全など、さまざまな

観点を踏まえ、庁内の関係する各課で計画の策定、協議会を設置するための検討を行なっていきたい。

◎スパシユランドについて

〔質問〕市長は2021年3月末での休館を提示する一方、存続させるための方策を検討することであったが、これまでの検討状況を伺う。

〔答弁〕〔市長〕国の補助金活用や民間への営業譲渡の可能性について取り組んできたが、具体的な話とはなっていない。

また、オリンピックパラリンピックが1年延長となったことから、練習施設として休館を1年間延長し、通常の営業状態を継続したいと考えている。

その他の質問

◎市民の命と健康を守る公立刈田総合病院について

◎多発する風水害の防災、減災対策について